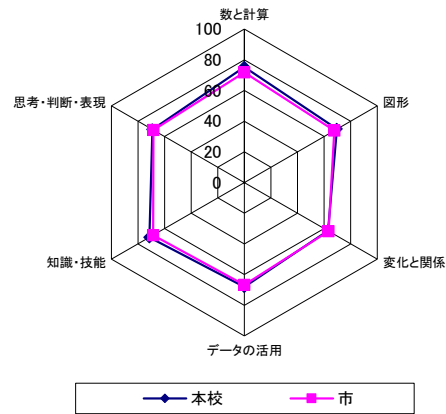


宇都宮市立富士見小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.3	71.8	76.2
	図形	69.6	67.7	67.8
	変化と関係	63.0	63.4	62.7
	データの活用	68.1	66.7	61.5
観点別	知識・技能	71.4	68.6	70.7
	思考・判断・表現	69.3	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本領域の平均正答率は75.3%で、市の正答率を3.5ポイント上回った。 ○「真分数＋真分数＝仮分数（帯分数）で、分母どうしをかける通分をする計算ができる」の平均正答率は88.0%で、市の正答率を12.7ポイント上回った。 ○「分数×分数（約分あり）の計算ができる」の平均正答率は94.4%で、市の正答率を6.5ポイント上回った。 ●「分数の除法の文章問題にあった式を選ぶことができる」の平均正答率は、市の正答率を0.4ポイント上回っているが、49.1%であった。	・数直線や面積図を手がかりに言葉の式にまとめ、整数や小数と同じように分数÷分数の式を導き出すことができるような場を設定する。 ・問題場面を数直線や図に表す場を多く設定し、基準量、比較量や倍を表す数が分数の場合に、それぞれの数量関係を理解し求めることができるようにする。
図形	○本領域の平均正答率は69.6%で、市の正答率を1.9ポイント上回った。 ○「点対称な図形について、対応する辺を求めることができる」の平均正答率は88.0%で、市の正答率を5.8ポイント上回った。 ●「半円と四分の一の円を組み合わせることができる図形の面積の求め方を説明している」の平均正答率は34.3%と低く、市の正答率を0.4ポイント下回った。 ●「円と四角形を組み合わせた図形の面積の求め方から、どの図形の面積を求めたのかを選んでいく」の平均正答率は、市正答率を8.7ポイント上回っているが、50.0%であった。	・円の面積の計算による求め方について理解させるとともに、複合図形を構成する要素などに着目し、図形を移動させたり補助線を引いたりしながら、一つ一つの図形の面積を求めてから引いたり足したりできるようにする。 ・平行四辺形、三角形、台形、ひし形など基本図形の面積の計算による求め方について、練習問題を繰り返し行い定着を図る。
変化と関係	●本領域の平均正答率は63.0%で、市の正答率を0.4ポイント下回った。 ○「図から面積と数の割合を求め、どのうさぎ小屋が最も混んでいるかを考察している」の平均正答率は83.3%で、市の正答率を3.3ポイント上回った。 ●「基準量と比較量から、割合を求めることができる」の平均正答率は47.2%で、市の正答率を3.3ポイント下回った。	・数直線を用いながら、基準量、比較量、割合の意味や関係を確認する。また、日常の事象における数量の關係に着目し、図や式を用いて、ある2つの数量の關係と別の2つの数量の關係との比べ方を考察する機会を増やしていく。
データの活用	○本領域の平均正答率は68.1%で、市の正答率を1.4ポイント上回った。 ○「ヒストグラムを正しく読み取っている」の平均正答率は86.1%で、市の正答率を1.4ポイント上回っている。 ○「値に0がある連続量の平均を求めている」の平均正答率は83.3%で、市の正答率を3.0ポイント上回った。 ●「帯グラフを読み取って、説明している」の平均正答率は34.3%で、市の正答率を0.2ポイント下回った。	・基準量、比較量、割合の意味や関係を確認するとともに、帯グラフの数値だけでなく、項目ごとの関連にも着目させるようにすることで、帯グラフや割合についての理解が確かなものとなるようにする。